

日本環境学会 第41回研究発表会 プログラム

1. 開催日程：2015年6月20日（土）、21日（日）

2. 会場：龍谷大学深草キャンパス

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67

JR奈良線「稲荷」駅下車、南西へ徒歩約8分

京阪本線「深草」駅下車、西へ徒歩約3分

京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋」駅下車、東へ徒歩約7分

3. 費用

①参加費（予稿集代含む）

一般・シニア会員：6,000円 学生会員：4,000円 非会員：7,000円

②予稿集代：1,500円

③懇親会費：一般・シニア会員：5,000円 学生会員：2,000円

④昼食（弁当）代：1食（お茶付き）800円

学内の食堂は土・日曜は営業しません。会場周辺には飲食店が若干ございます。

※お弁当を希望される方は6月5日（金）までに参加費等とともに振込みをお願いします。この期日以降に振り込まれた場合、お弁当の受付は致しません。

（6日以降にお振り込み頂いた代金は返金致しませんのでご注意ください）

4. 参加申込について

①事前参加申し込み：所定の振込用紙にてのお支払いをもって参加申し込みとします（振込み料金をご負担願います）。

②当日参加申し込み：会場にて受け付けます。

※領収書をご希望の方は当日にお申し出ください。

※参加費を納入されて研究発表会をご欠席された場合、納入した参加費の払い戻しは致しませんが、予稿集はお送りいたします。

5. 第41回研究発表会実行委員会

委員長：北川秀樹

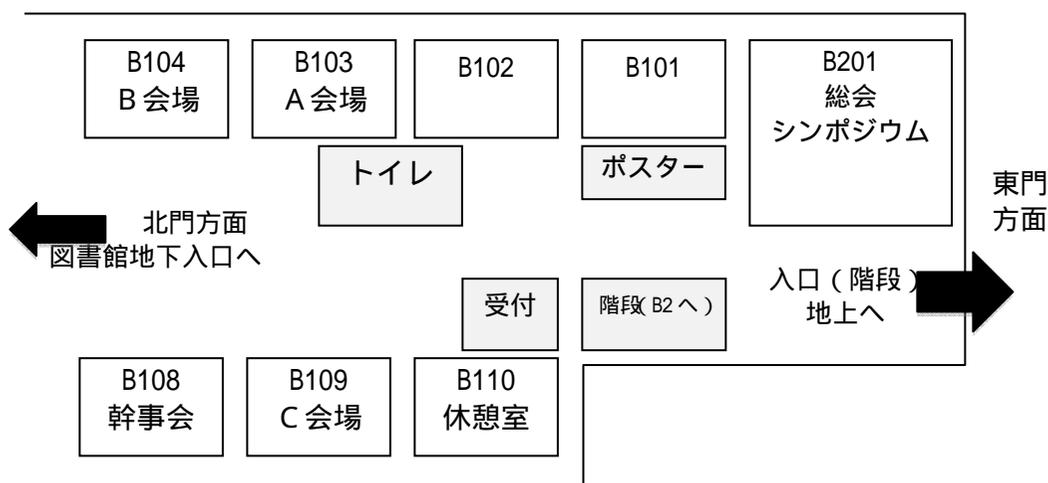
事務局：的場信敬（事務局長、会計・懇親会担当）、安田圭奈江（予稿集担当）

知足章宏、豊田陽介、中村真悟（以上、シンポジウム担当）

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67 龍谷大学政策学部 的場研究室

メールアドレス：jaes2015@jaes.sakura.ne.jp

会場配置図 和顔館（新1号館）地下1階



総会・シンポジウム：B201 教室

A会場：B103 教室

B会場：B104 教室

C会場：B109 教室

幹事会：B108 教室

休憩室：B110 教室

ポスター発表：B101 教室前

【重要】口頭発表を予定されている皆様へ

- ・口頭発表は発表12分、質疑応答3分の計15分です。
- ・セキュリティの都合上、口頭発表にて液晶プロジェクターを使用する場合は、パーソナルコンピューターをご自身でご用意下さい。接続はVGA端子（ミニ D-Sub 15pin）です。この端子以外を利用する方で変換ケーブルが必要な場合は、必ずご自身でご持参下さい。大会事務局では対応致しかねます。

全体プログラム

1日目 6月20日(土) 受付 9:30~

【 】内は発表番号

	A 会場 (B103 教室)	B 会場 (B104 教室)	C 会場 (B109 教室)
	環境経済学・環境政策	エネルギー	環境教育・環境哲学
10:00	【A-1】	【B-1】	【C-1】
10:15	【A-2】	【B-2】	【C-2】
10:30	【A-3】	【B-3】	【C-3】
10:45	【A-4】	【B-4】	【C-4】
11:00	休憩 (15分)		
	環境経済学・環境政策 大気汚染	エネルギー	自由論題
11:15	【A-5】	【B-5】	【C-5】
11:30	【A-6】	【B-6】	【C-6】
11:45	【A-7】	【B-7】	【C-7】
12:00	【A-8】	【B-8】	【C-8】
12:15 13:30	休憩・昼食 幹事会 (B108 教室)		
13:30 14:30	総会 (B201 教室)		
14:30	休憩 (15分)		
14:45 18:00	シンポジウム(B201 教室)		
18:30 20:30	懇親会 (22号館ホール1)		

2日目 6月21日(日) 受付 8:30~

【 】内は発表番号

	A 会場 (B103 教室)	B 会場 (B104 教室)	C 会場 (B109 教室)
	震災・災害関連	地球環境 環境教育・環境哲学	廃棄物・都市問題
09:00	【A-9】	【B-9】	【C-9】
09:15	【A-10】	【B-10】	【C-10】
09:30	【A-11】	【B-11】	【C-11】
09:45	【A-12】	【B-12】	【C-12】
10:00	休憩 (15分)		
	震災・災害関連 土壌・水質汚染	環境教育・環境哲学	廃棄物・都市問題
10:15	【A-13】	【B-13】	【C-13】
10:30	【A-14】	【B-14】	【C-14】
10:45	【A-15】	【B-15】	【C-15】
11:00	【A-16】	【B-16】	【C-16】
11:15	休憩 (15分)		
	大気汚染	生態系・動植物への影響 環境経済学・環境政策	自由論題
11:30	【A-17】	【B-17】	【C-17】
11:45	【A-18】	【B-18】	【C-18】
12:00	【A-19】	【B-19】	【C-19】
12:15	【A-20】	【B-20】	【C-20】
12:30	【A-21】	【B-21】	【C-21】
12:45 	休憩・昼食 幹事会 (B108 教室)		
13:30	ポスター発表		
13:30 	企画セッション【K-1】	企画セッション【K-2】	企画セッション【K-3】
15:30			

日本環境学会・龍谷大学地域公共人材・政策開発
リサーチセンター（LORC） 共催シンポジウム

『地域エネルギー政策最前線：地域社会の構造的再生に挑むイノベーターたち』

開催日時： 2015年6月20日（土） 14:45~18:00

会場： 龍谷大学深草キャンパス 和顔館 B201 教室

登壇者：

メインスピーカー： 白石 克孝 氏（龍谷大学政策学部教授、地域公共人材・
政策開発リサーチセンター長）

事例報告者： 西村 仁志 氏（新城市環境部地域エネルギー推進課長）

上山 隆浩 氏（西栗倉村産業観光課長）

豊岡 和美 氏（一般社団法人徳島地域エネルギー理事）

深尾 昌峰 氏（株式会社 PLUS SOCIAL 代表取締役、
龍谷大学政策学部准教授）

企画趣旨と目的

地球温暖化の深刻化や福島第一原発事故以降の社会状況の変化は、日本における再生可能エネルギー導入の議論や実践を一気に活発化させた。固定価格買取制度の改変や自治体レベルでの再生可能エネルギー基本条例といった制度の整備、エネルギー政策を地域運営の本流に据える自治体の出現、市民や民間企業の再生可能エネルギー導入事業への出資意欲の向上など、「エネルギーシフト」を実現するしくみや担い手は、フクシマ後の4年あまりの間で急速に整備されてきた。

一方で、これらのしくみや担い手に関わる様々な課題も顕在化している。一般電力事業者による再生可能エネルギーの受け入れ保留の問題はもちろん、再生可能エネルギー基本条例の更なる普及と理念の具現化の方策、そのようなしくみを活用する担い手の多様化と持続性の確保など、日本における今後の再生可能エネルギーの普及を左右する重要な課題が山積している。固定価格買取制度の改正も相まって、日本の再生可能エネルギー政策はまさに岐路にあるといえる。これらのしくみや担い手の中で、何が機能して何が機能しなかったのか、その理由は何なのか、を冷静に分析し今後の展開につなげていく必要がある。

そこで本シンポジウムでは、フクシマ後のエネルギー政策について、以下の4点に注目して総括し、その今後の展望を議論する。

- 再生可能エネルギーを地域資源として活用可能にするための、固定価格買取制度のあり方
- 再生可能エネルギー基本条例の効果と課題、具現化のための要素
- エネルギー政策を地域の総合的な戦略に組み入れる自治体のあり方
- 再生可能エネルギー実装の担い手の多様化と持続性の確保

ここで見据えているのは、再生可能エネルギーによる「エネルギーシフト」を実現し、さらにそれを地域資源として戦略的に活用出来るような地域社会の将来像である。そして、現在単発的に散見される成功事例を日本全国に広げるような総合的な戦略のあり方である。それを阻む障壁を明らかにし、その解決策を、先進事例を牽引する全国の担い手による議論を通して探る。理念先行ではない地に足をつけた議論を展開したい。

登壇者報告要旨

西村 仁志 氏（新城市環境部地域エネルギー推進課長）

かつて民間事業者によるウインドファーム事業が持ち上がった際、地域のイニシアティブ（自治体の権限や住民意思の反映など）が働かず、その対応に苦慮したことから、FIT の施行に合わせ、市の事業に対する考え方、基本姿勢を明確にするために新城市省エネルギー及び再生可能エネルギー推進条例を 2012 年 12 月に制定した。

その後、更に地域主導型再エネ事業を後押しするために、2014 年 10 月に条例の一部を改正し、「新城市再生可能エネルギー導入の促進に関する基本的な方針」を策定した。

上山 隆浩 氏（西粟倉村産業観光課長）

西粟倉村は、「百年の森林構想」により長期施業管理委託に基づく森林管理を実施し、森林の安定的な成長を持続させるとともに水力発電事業の収益を木質バイオマス等の再生エネルギーの導入や二酸化炭素の削減に再投資することで地域資源活用の新たな地域経営モデルの構築と魅力ある中山間地の将来像を提示したいと考えている。

豊岡 和美 氏（一般社団法人徳島地域エネルギー理事）

日本で FIT が始まり 3 年が過ぎようとしている。全国での再エネの事業をみると、大規模なものほとんどを大企業とメガバンクが利益を持っていく所謂「エネルギー

の植民地化」の事例が殆どである。

私たちは地域の資源を地域で開発し、自治体や一次産業を応援する仕組みを事業化した。自らには資本は無くても、地銀や自治体、地元企業との連携で大きな事業も地域で回すことが出来る。

深尾 昌峰 氏（株式会社 PLUS SOCIAL 代表取締役、龍谷大学政策学部准教授）

持続可能な地域づくりの核として再生可能エネルギーを据え取り組みを進める地域も多くなってきた。ただ、市民による取り組みにおいては、資金調達の関係などでソーシャルインパクトが弱くなる傾向にある。

「龍谷ソーラーパーク」で導入した社会的投資の考え方は、地域づくり全般に汎用性のある仕組みであり、地域の資金循環の要になっていく可能性がある。「ポストFIT」をにらみながら、地域における社会的投資の可能性について考えたい。

スケジュール（予定）

14:45 開会挨拶、趣旨・進め方説明

14:55-15:05 白石氏によるキーワード提起①：地域再生可能エネルギー基本条例

15:05-15:20 報告1： 西村仁志氏（新城市環境部地域エネルギー推進課長）

15:20-15:30 トークセッション1： 白石氏＋西村氏

15:30-15:40 白石氏によるキーワード提起②：地域エネルギー政策

15:40-15:55 報告2： 上山隆浩氏（西栗倉村産業観光課長）

15:55-16:05 トークセッション2： 白石氏＋上山氏

16:05-16:15 休憩

16:15-16:25 白石氏によるキーワード提起③：再生可能エネルギー事業の担い手

16:25-16:40 報告3： 豊岡和美氏（一般社団法人徳島地域エネルギー理事）

16:40-16:55 報告4： 深尾昌峰氏（株式会社 PLUS SOCIAL 代表取締役）

16:55-17:10 トークセッション3： 白石氏＋豊岡氏＋深尾氏

17:10-17:20 休憩

17:20-17:40 トークセッション4： 白石氏＋登壇者全員

（FIT や電力自由化など全体のまとめの議論）

17:40-17:55 会場との質疑応答

17:55-18:00 閉会挨拶

一般報告プログラム (連名の場合、○印が報告者)

1日目 6月20日(土)

< A会場 : B103教室 >

【座長 : 中村真悟】

- 10:00 A-1 市民・地域共同発電所の動向と展望
豊田陽介 (特定非営利活動法人気候ネットワーク)
- 10:15 A-2 地域づくり型再生可能エネルギー事業における中間支援組織に関する研究
平岡俊一 (北海道教育大学教育学部釧路校)
- 10:30 A-3 エネルギー自立地域づくりと経済効果
上園昌武 (島根大学法文学部)
- 10:45 A-4 アメリカのガソリン環境規制の政治経済学
野口義直 (摂南大学経済学部)

【座長 : 森家章雄】

- 11:15 A-5 インドネシアの環境保全型農林業としてのヤシ砂糖生産への支援の試み
○佐藤輝・星万由子・櫻井美佑・石川葵 (フェリス女学院大学国際交流学部)・矢田誠・田儀耕司 (日本環境教育フォーラム国際事業部)
- 11:30 A-6 Puget Consumers' Co-op Natural Markets の環境配慮型経営
西川祥子 (兵庫県立大学)
- 11:45 A-7 二酸化窒素 (NO₂) 月間測定用簡易カプセルの実用性
○鈴木一義 (市川の空気を調べる会)・伊藤章夫 (元千葉県環境研究センター)・栗屋かよ子 (元四日市大学)・天谷和夫 (元群馬大学)
- 12:00 A-8 ディーゼル車輸送データと大気汚染の関連について
近江貴治 (中村学園大学)

< B会場 : B104教室 >

【座長 : 歌川学】

- 10:00 B-1 風力・太陽光発電による配電網における逆潮流をめぐる系統運用, 日独比較
竹濱朝美 (立命館大学産業社会学部)

- 10:15 B-2 インド BJP 政権の再生可能エネルギー利用政策の実態と問題点
和田幸子（元・神戸市外国語大学）
- 10:30 B-3 「地球環境本位制」についての考察～持続可能な低炭素社会構築のための「炭素通貨」の議論を中心に～
古屋力（東洋学園大学）
- 10:45 B-4 セラフィールドの役割の変化
松田真由美（公益財団法人政治経済研究所）

【座長：平岡俊一】

- 11:15 B-5 地域貢献を目指した温泉発電の開発手法に関する研究
○阿部博光（別府大学国際経営学部）・友成真一（早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科）
- 11:30 B-6 小規模木質バイオマス発電の重要性と展望
和田武（元・立命館大学）
- 11:45 B-7 岡山県における温室効果ガス排出実態と大口事業者・事業所の対策
○歌川学（産総研）・上園昌武（島根大）・塩飽敏史（水島地域環境再生財団）
- 12:00 B-8 環境制約下の 2050 年迄を視野に入れた温暖化対策検討
○歌川学（産総研）・外岡豊（埼玉大）・平田仁子（気候ネットワーク）

< C 会場：B109教室 >

【座長：萩原豪】

- 10:00 C-1 京都市街頭ごみ容器の分別率に対するピクトグラムの効果
○高野拓樹（京都光華女子大学キャリア形成学部キャリア形成学科）・田中清秀（京都市環境政策局循環型社会推進部西部まち美化事務所）・大志万英幸（京都市環境政策局山科まち美化事務所山科エコまちステーション）
- 10:15 C-2 学生による地域の小学生への環境教育の実践
○高野拓樹（京都光華女子大学キャリア形成学部キャリア形成学科）・大志万英幸（京都市環境政策局山科まち美化事務所山科エコまちステーション）
- 10:30 C-3 大学における ISO14001 の取得推移と千葉大学の学生主体の EMS に関する

10年間の成果

岡山咲子（千葉大学人文社会科学研究所公共研究専攻博士後期課程）

10:45 C-4 大学の省エネ・温暖化対策と指標評価

○山本元（気候ネットワーク）・伊東真吾（市民エネルギー京都）・歌川学（産総研）・木原浩貴（京都府地球温暖化防止活動推進センター）・田浦健朗（気候ネットワーク）・吉見和彦（京都市環境政策局）

【座長：知足章宏】

11:15 C-5 市民から見る都市の環境状況およびよりよい社会形成に向けた意識・行動の傾向について—ウェブアンケート調査結果から—

○渡未絢（NTT データ経営研究所）・川原志郎（川崎市環境総合研究所）

11:30 C-6 デジタルカメラ観測を通して探る、身近な生態系の変動

○井上智晴・永井信（海洋研究開発機構 地球表層物質循環研究分野）

11:45 C-7 福島原発事故被害の実態研究—双葉郡川内村を事例に

藤原遥（一橋大学大学院経済学研究科博士課程）

12:00 C-8 金融化と環境問題

原田雄太郎（東京農業大学生物資源開発研究所オホーツク実学センター特別研究員）

2日目 6月21日（日）

< A会場：B103教室 >

【座長：磯部作】

09:00 A-9 “開発災害”環境—その1：とくに原発災害に関する地質学的問題

志岐常正（国土問題研究会）

09:15 A-10 “開発災害”環境—その2：2014 広島土石流災害地の減災的地域環境計画のために

○志岐常正（国土問題研究会）・越智秀二（比治山女子中高等学校）

09:30 A-11 帰還で気になる放射線の健康影響～1mSv か 20mSv かで混乱～

横山裕道（淑徳大学）

09:45 A-12 復興支援員への聞き取り調査から明らかにする支援活動の現状：福島県田村市の事例より

○桜井良（立命館大学政策科学部）・奥田加奈（ふくしま連携復興センター）・塚原大介（ふくしま連携復興センター）

【座長：杉本通百則】

10:15 A-13 東日本大震災4年後の千葉県におけるフクシマ

伊藤章夫（元千葉県環境研究センター）

10:30 A-14 大震災と海底瓦礫問題

磯部作（放送大学（非）、元日本福祉大学）

10:45 A-15 異なる不法投棄地点により分離された大腸菌群の菌種の比較

○北元憲利・安方英実子・加藤陽二（兵庫県立大・環境人間）

11:00 A-16 物質収支に基づいた相模湖の水質改善に関する考察

咸泳植（東京都市大学環境学部）

【座長：長屋祐一】

11:30 A-17 簡易ダスト計で測定した公害地域でのPM_{2.5}濃度の特徴

後藤隆雄（公害環境問題研究会）

11:45 A-18 ウランバートル市でのゲルストーブの燃焼実験

○武本行正(四日市大学環境情報学部)・高橋正昭(四日市大学環境情報学部)・伊藤薫(四日市看護医療大学)・竹内佐智恵(三重大学医学部看護学科)

12:00 A-19 VOC濃縮装置での常時300℃再生による性能の向上

○成重晋作・金偉力・古木啓明・山田健一郎・岡野浩志(株西部技研)

12:15 A-20 微小粒子状物質（PM_{2.5}）とぜん息罹患率との関連性について

神戸治夫（川崎から公害をなくす会）

12:30 A-21 二酸化炭素の公害規制を～市内におけるCO₂調査の結果について

神戸治夫（川崎から公害をなくす会）

< B会場：B104教室 >

【座長：阿部博光】

09:00 B-9 地球温暖化と気候変動が表層土の理化学性と物質循環に及ぼす影響に関

する研究

咸泳植（東京都市大学環境学部）

- 09:15 B-10 市民科学プロジェクト参加者の意識が参加意欲に与える影響
○小松直哉（東京都市大学環境情報学研究科）・小堀洋美（東京都市大学環境情報学研究科）・吉崎真司（東京都市大学環境情報学研究科）・桜井良（立命館大学政策科学部）
- 09:30 B-11 沖永良部島における湧水地を用いたESD実践とその波及効果
○萩原豪（高崎商科大学）・元木理寿（常磐大学）・野村卓（北海道教育大学釧路校）
- 09:45 B-12 農薬各種の健康被害
河内俊英（久留米大学・比文研研究員）

【座長：上園昌武】

- 10:15 B-13 エコリテラシー向上に寄与するマスコミの役割～新聞による環境情報発信～
○蒲生孝治・飛坂舞（京都女子大学）
- 10:30 B-14 ルートヴィヒ・ジープのコスモス（生命・環境）倫理学
飛田満（目白大学社会学部）
- 10:45 B-15 温暖化問題を環境倫理から考えるのはなぜ難しいのか
柿沼美穂（国立環境研究所）
- 11:00 B-16 予防原則は環境・安全社会に必須の基本倫理である
○森家章雄（兵庫県立大学）・西川祥子（兵庫県立大学）

【座長：河内俊英】

- 11:30 B-17 水耕液へのグリシンベタイン添加がコマツナおよびフダンソウの生育に及ぼす影響
○箭柏聖（東京農業大学大学院）・松本恵理香（東京農業大学生物応用化学科）・原直人（東京農業大学大学院）・前田良之（東京農業大学大学院・東京農業大学生物応用化学科）
- 11:45 B-18 事前情報が少ない状況における統計モデリングの意義
村瀬香（名古屋市立大学大学院・生物多様性センター）
- 12:00 B-19 中小企業の省エネルギーバリアの実態に関する考察～バリア克服までのプロセスに着目して～

○木原浩貴（京都府地球温暖化防止活動推進センター）・北川秀樹（龍谷大学）

12:15 B-20 世界遺産と緩衝地帯（バッファゾーン）の環境保全についてー下鴨神社などの最近の事例から

中島晃

12:30 B-21 地下水保全のガバナンスに関する一考察：市町村を対象とした質問紙調査の結果から

千葉知世（阪南大学）

< C会場：B109教室 >

【座長：佐藤輝】

09:00 C-9 寝屋川廃プラスチック公害とたたかう

長野晃（大阪公害環境測定研究会、廃プラ処理による公害から健康と環境を守る会）

09:15 C-10 滋賀県下の廃棄物問題

畑明郎（滋賀環境問題研究所）

09:30 C-11 「環境産業」としての静脈産業の発展に関する考察ー外国人・移民企業家との関わりに着目してー

○浅妻裕（北海学園大学）・福田友子（千葉大学）

09:45 C-12 霧島酒造の芋くず・焼酎かすを資源としたサツマイモ発電について

八木正（鹿児島国際大学経済学部）

【座長：豊田陽介】

10:15 C-13 福岡県大木町の生ごみ・し尿処理とバイオマス発電

八木正（鹿児島国際大学経済学部）

10:30 C-14 コウノトリと共に暮らす街づくり

千葉有紀子（龍谷大学政策学研究科）

10:45 C-15 老朽空き家問題に対する法的対応

小谷真理（同志社大学政策学部）

11:00 C-16 ウランバートル市の都市化と環境問題の現状

Bat-Erdene TUMEN-ULZII（東京大学大学院工学系研究科研究生）

【座長：浅妻裕】

- 11:30 C-17 日本におけるフェアトレード—出版物発行数と新聞記事数からみた認知の変遷—
小倉亜紗美（広島大学平和科学研究センター）
- 11:45 C-18 四日市公害資料館開館と市民参加
栗屋かよ子（元四日市大学・CSO 環境よっかいち）
- 12:00 C-19 「オール沖縄」の闘いに学んで
杉浦公昭（元東洋大学・工学部）
- 12:15 C-20 人間についての研究の必要性
天谷和夫（元群馬大学）
- 12:30 C-21 パレスチナの問題—占領下における問題発生メカニズム
吉田充夫（（独）国際協力機構・東京大学大学院新領域創成科学研究科）

<ポスター発表>

- 12:45 P-1 中国内蒙古自治区阿拉善盟の乾燥地・半乾燥地の集積層の分布および理化学性に関する研究
咸泳植・○根本磯一（東京都市大学環境情報学部）
- 13:00 P-2 北陸から西日本にかけての空間線量
中山榮子(昭和女子大学環境デザイン学科)・青山智夫(筑波大 CRiED)
- 13:15 P-3 総合的な学習を利用した小学生による海洋環境教育の実践
○北村祐一（大島商船高等専門学校練習船大島丸）・角田哲也（大島商船高等専門学校商船学科）・北風裕教（大島商船高等専門学校情報工学科）

<企画セッション> 13:30～15:30

- A会場 K-1 中国における環境ガバナンスの改善へ向けた課題と展望
座長：北川秀樹（龍谷大学政策学部）
- B会場 K-2 福島第一原発事故による放射能汚染問題
座長：畑明郎（環境学会原発プロジェクト委員長）
- C会場 K-3 時速500キロで突っ走るリニア中央新幹線の諸問題
座長：西川榮一（神戸商船大学名誉教授）